

フロンティアスクール用報告書

都道府県名	広島県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	佐伯郡湯来町立湯来中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	0	3	13
生徒数	21	19	34	0	74	

研究の概要

1. 研究主題

「基礎・基本を重視し、意欲的に学ぶ生徒の育成」  
～基礎学力の確実な定着をめざす学習指導の在り方～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

実施学年...全学年で実施(1, 2, 3学年)  
理 由...小学校との連携をふまえ、9ヶ年を見通したカリキュラム作成を行う。また、小規模校の特性を生かしながら、基礎・基本の確実な定着を図るため全学年を対象に取り組む。  
実施教科...国語, 数学, 英語 (社会, 理科)  
理 由...小学校との連携を持ちながら、特に国語, 数学, 英語について重点を置いて指導方法や教材開発の改善に取り組む。社会, 理科についても同様に取り組むことにする。

(2) 年次ごとの計画

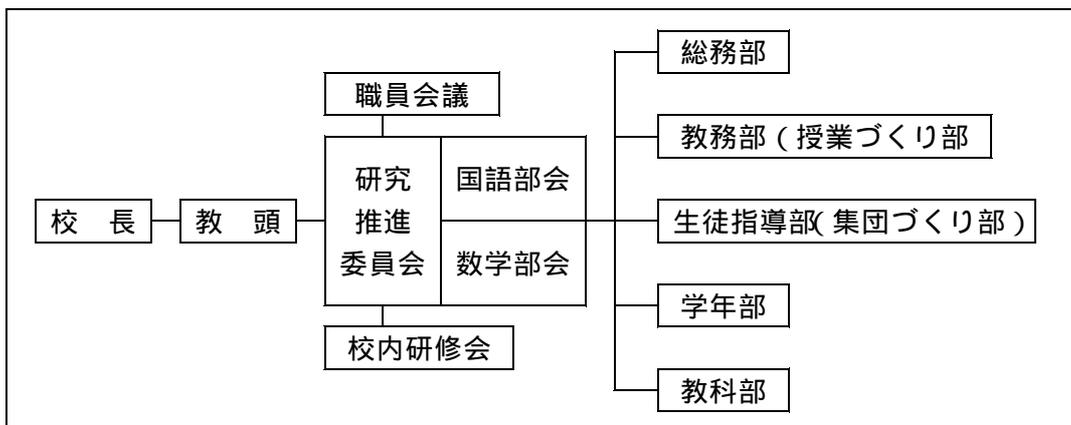
平成14年度	<p>テーマ</p> <p style="text-align: center;">「基礎・基本を重視し、意欲的に学ぶ生徒の育成」 ～基礎学力の確実な定着をめざす学習指導の在り方～</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>生徒一人一人の学習実態に基づいた学習プランを作成し、個に応じたきめ細かな指導と評価を行えば、生徒は自らの課題克服に向け意欲的に取り組み、確かな学力を身に付けるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>研究の視点に沿って、基礎的・基本的な内容がより確実に定着するための具体的な研究の道筋を明らかにする。</p>
--------	---

平成14年度	<p>ア 個に応じた教材開発 習熟の程度に応じた教材の開発，SHR 学習プリント・ドリル学習，家庭学習の定着，放課後や休業中の補充学習，校内漢字検定・校内英語検定等への取組み，朝読書の工夫 など</p> <p>イ 指導方法の工夫 選択教科の多様なコース，T Tによる少人数指導，習熟度別学習，指導の個別化，問題解決的な学習の活性化，小・中連携による指導方法体制の工夫改善，小学生の中学校における授業体験・部活体験の実施，小・中それぞれの繰り返し学習等による定着の場 など</p> <p>ウ 意欲を引き出す評価 評価方法の工夫，評価規準・基準の作成，学習評価のあり方について研究，振り返り表による自己評価，相互評価の導入，「基礎・基本」定着状況調査・C R Tテストの実施と分析，学級経営の充実 など</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 「基礎・基本を重視し，意欲的に学ぶ生徒の育成」 ～基礎学力の確実な定着をめざす学習指導の在り方～ 研究の見通し（仮説） 生徒一人一人の学習実態に基づいた学習プランを作成し，個に応じたきめ細かな指導と評価を行えば，生徒は自らの課題克服に向け意欲的に取組み，確かな学力を身に付けるであろう。 研究内容・方法 明らかになった研究の道筋に沿って，基礎的・基本的な内容がより確実に定着するための具体的な研究の内容を明らかにする。</p> <p>ア 個に応じた教材開発 習熟の程度に応じた教材の開発，SHR 学習プリント・ドリル学習，家庭学習計画表の実施，学習の手引き作成，放課後や休業中の補充学習，校内漢字検定・校内英語検定等の実施と分析，朝読書の工夫，音読，スピーチ など</p> <p>イ 指導方法の工夫 選択教科の多様なコース，T Tによる少人数指導，習熟度別学習，指導の個別化，問題解決的な学習の活性化，小・中連携による指導方法体制の工夫改善（出前授業の実施等），小・中それぞれの繰り返し等による定着の場 など</p> <p>ウ 意欲を引き出す評価 評価方法の工夫，評価基準の作成，補助簿の作成，学習評価のあり方について研究，振り返り表による自己評価，相互評価の導入，基礎・基本定着状況調査，C R Tテストの実施と分析，学級経営の充実など数学科では，校内数学検定の作成は次年度に持ち越し，課題を持つ生徒への学習支援としてT2によるピンポイント指導に力を注いだ。 継続して学び方の習得を図るため，家庭学習マニュアルを学習の手引きとして作成し活用している。</p>
--------	---

平成 16 年 度	<p>テーマ</p> <p>「基礎・基本を重視し，問題解決力や自己評価力があり，意欲的でねばり強く学ぶ生徒の育成」</p> <p>～基礎学力の確実な定着と充実，発展をめざす学習指導の在り方～</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>生徒一人一人の学習実態に基づいた学習プランを作成し，個に応じたきめ細かな指導と評価を行えば，生徒は自らの課題克服に向け意欲的に取り組み，確かな学力を身に付けるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>明らかになった研究の道筋に沿って，基礎的・基本的な内容がより確実に定着するための具体的な研究の内容を深める。</p> <p>ア 個に応じた教材開発</p> <p>習熟の程度に応じた教材の開発，SHR 学習プリント・ドリル学習，家庭学習計画表の実施，学習の手引き活用，放課後や休業中の補充学習，校内漢字検定・校内英語検定の実施と分析，校内数学検定や校内社会科検定の作成・実施，朝読書の工夫，音読，群読，スピーチ など</p> <p>イ 指導方法の工夫</p> <p>選択教科の多様なコース，TTによる少人数指導，習熟度別学習，指導の個別化，問題解決的な学習の活性化，小・中連携による指導方法体制の工夫改善（みのちレッスンの実施等），小・中それぞれの繰り返し学習等による定着の場（小中9カ年のカリキュラムの検証）など</p> <p>ウ 意欲を引き出す評価</p> <p>評価方法の工夫，評価基準の作成，補助簿の作成，学習評価のあり方について研究，振り返り表による自己評価，互いを認め合う相互評価の導入，基礎・基本定着状況調査・CRTテストの実施と分析，学級経営の充実 など</p>
--------------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

成果

平成 14 年度の家庭学習時間 1 時間未満の生徒が今年度の「基礎・基本」定着状況調査の結果分析により、国語科は 4.3 ポイント増、数学科は 7.8 ポイント増、英語科は 19.7 ポイント増の通過率がうかがえ、とりわけ、英語科における指導方法と評価方法の工夫改善（習熟度別学習・校内英語検定・チューター指導個人カルテと振り返り表等）により、「話すこと」や「書くこと」の定着度が平均 20.7 % 増加し、（広島県基礎基本定着状況調査通過率）

英語の勉強がわかる生徒が 60 % を達成した。

現 2 年生の昨年度の家庭学習 1 時間未満の生徒は 63 %、テレビ視聴時間 3 時間以上は 47.5 %、

「何のために勉強するか言うことができる生徒」は 47.3 % であった。

右表の通り、学習の目的意識の向上とともに、家庭学習習慣が定着しつつある様子が見えてくる。以下、フロンティアの研究の視点に基づいて取組みの内容を説明していきたい。

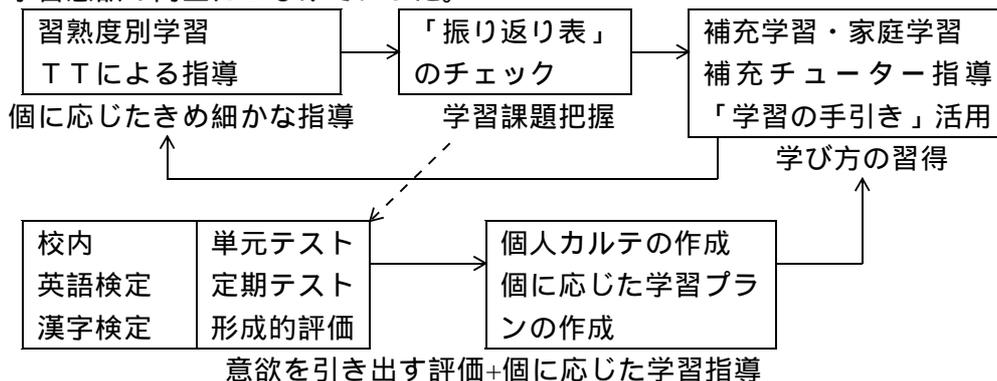
		国語	数学	英語
平成 14 年度	県平均	73.3	59.0	69.3
	湯来中	75.4	58.6	61.5
平成 15 年度	県平均	76.0	64.9	73.6
	湯来中	79.7	66.4	81.2
UP ポイント		4.3	7.8	19.7

（広島県生活実態調査：％）

家庭学習時間が 1 時間未満である。	63	45
テレビ視聴時間 3 時間以上である。	47.5	31.5
何のために勉強するか、言うことができる。	47.3	78.9

(1) はじめに

本校の生徒の学力の向上へ向けた取組みの柱として、授業の指導方法の改善と家庭学習の定着があげられる。本校の研究仮説「生徒一人一人の学習実態に基づいた学習プランを作成し、個に応じたきめ細かな指導と評価を行えば、生徒は自らの課題克服に向け意欲的に取り組み、確かな学力を身に付けるであろう。」を具現化するため、次の図のような学習サイクルを作り上げ、学習意欲の向上につなげていった。



(2) 基礎的・基本的な内容がより確実に定着するためのカリキュラムと教材の開発を行う。

国語科の取組み（校内漢字検定・朝読書・音読指導等）

校内漢字検定

昨年度の基礎基本定着状況調査の結果から、国語科においては「書くこと」67.9 %、「読むこと」57.5 %と定着が不十分であり、特に漢字や漢語への理解に乏しく、国語に対する正確な知識や理解を妨げている要因ともな

っている。そこで校内漢字検定（年間5回）を計画的に行うことにより、生徒が自分の能力に応じて選択し、取り組むことにより語彙力を身につけさせた。また、新聞への投書や小論文等（ことばの輝きコンクールへの出品）を書かせる機会を増やし、確実に語彙力が定着するよう図っている。現在の校内漢字検定の状況は別紙資料1の通りである。

〔別紙資料1 校内漢字検定参照〕

#### 朝の読書の取組み

生涯読書に親しむ態度を育て、1日の始まりを落ち着いた雰囲気ですタートさせるため、昨年度から朝8：15分より10分間好きな本を各自で静かに読むことにしている。「朝の読書に関するアンケート」の結果から次のような記述が目立った。

- ・以前は字の小さい本は読まなかったけど、今は小さい本長い本を読むようになった
- ・本が好きになった。・たくさん読むようになった
- ・家や休憩中暇があれば読むようになった
- ・速く読めるようになった
- ・朝静かに過ごせる
- ・静かなときと騒ぐ時の区別がついた
- ・マンガの小説を買うようになった
- ・漢字力、集中力がついてきた
- ・毎日読む習慣が身についた
- ・読み間違いが減った
- ・本に勇気づけられた
- ・四字熟語がわかるようになった

アンケートでは、大部分の生徒（70%以上）が「自分の好きな本を読んでいる」ことがわかり、「朝の読書を楽しみ」と感じている生徒が平成14年度比約17%増加している。さらに朝の読書について「効果を上げている」点については、漢字や言葉の力がついてきた」と答えた生徒が20%以上増えた。このことから考えて、以前より主体的に朝読みに取組み、力がつき朝の読書が定着していることが分かる。このように読書習慣が定着し、活字文化に慣れ親しんでいる様子から、今年度は外部講師（元アナウンサーや図書館司書）を招聘し、コミュニケーション能力の育成を図ったり、読書への関心も高めている。その結果、今年度の定着状況調査では「書くこと」は93%と35.5ポイント増加している。

#### 音読指導について

音読、朗読、群読、暗唱などの方法を工夫しながら、文章を繰り返し主体的に読ませている。教科書の音読は内容理解のためにも重要なので、なるべく毎時間時間をさき、読む方法は、一人で、ペアで、班内で、学級全体で（挙手・指名・くじなど）など、範囲も一文ずつ、形式段落ごと、意味段落ごと、間違ったところまでなど変化をつけて意欲的に取り組ませている。

1年生に関しては、教科書教材以外の暗唱をさせている。授業の最初に練習の時間を取り、テストを1月に1回程度行っている。出典については次の通りである。

『声に出して読みたい日本語』（斉藤孝著）

4～5月 「弁天娘女男白浪」「がまの油」「平家物語」「不識庵機山を撃つ」の図に題す」より1つ選択

6月 「国定忠治」「すゑひろがり」「寿限無」より1つ選択

7月 「五行・十干・十二支・十二ヶ月」（共通）

成果としては、仲間同士で音読するときは教え合いながら楽しく学習して

いる。目的意識を持たせるためにも今後は単元テストは「漢字」編と「音読」編にしていく。また、1年生は3つの文章を全員が暗唱でき、自信につながっている。

#### 英語科の取り組み（校内英語検定等）

昨年度の基礎基本定着状況調査の結果分析によると、「書くこと」の通過率が51.6%ときわめて低いため、単語と文法のスキルアップを図り、基本的な文型を理解させるために校内英語検定を実施している。この検定は、中学校3年間の学習内容を単語と文法に分け、10段階のレベルで習熟の度合いを測るものである。生徒は、自らのペースで学習に取り組み、その結果を公に認めてもらうことで自信につながっている。また、実用英語検定よりも試験範囲が狭く、校内で小刻みにテストすることでより気軽に英語の力試しができ、

	平成 14 年度	平成 15 年度	受検 率
受検者	25名	32名	平14
合格者	17名	21名	37.3
英検3級	0名	6名	
英検4級	8名	8名	平15
英検5級	9名	7名	42.6

英語学習の意欲も高まってきている。さらに、この取り組みが定期テストや実用英語検定の結果にもよりよく反映をしている。実用英語検定の受検率は昨年度比5.3%増加している。英検3級は100%合格を成し遂げた。成果としては今年度の「書くこと」の通過率は、65.7%と14.1%増加している。

〔別紙資料2 校内英語検定参照〕

- (3) 基礎的・基本的な内容がより確実に定着するための指導方法・指導体制の研究を行う。

#### 習熟度別学習（数学科・英語科）

##### 数学科の取り組み

数学科においては、3年生の生徒に東郷山コース（基礎）と水内川コース（応用）を選択させている。授業の実施形態については次の通りである。

	実施形態	主な授業内容
パターンA (年間83h)	前半は一斉に授業し、後半は習熟度別に分けて実施	既習内容の問題演習、入試問題演習、単元の導入等
パターンB (年間22h)	50分間、習熟度別クラスに分けて実施	テスト前の学習、テスト後の補習等

コース選択は、単元テスト後に「振り返り表」をチェックさせ、個人カルテを参考に適切にアドバイスした上で選択させている。振り返り表による自己評価能力を高めながら、生徒自身に適したコース選択が可能になるようにしている。次の表は、単元における自己評価能力の様子をあらわしたものである。A（よくできる）、B（まあできる）、C（少し不安）、D（よくわからない）とし、点数化（4～1点）したものである。

#### 〔東郷山（基礎）コース〕

	展 開		因数分解	
ふり返り平均が上がった生徒	5人	コース全体の平均	11人	コース全体の平均
ふり返り平均が下がった生徒	14人	事前 2.63	7人	事前 2.60
単元テストの平均点	62.5点	事後 2.34	65.6点	事後 2.65

生徒自身がよくわかっている（できる）と思っていることがテストでできたりできなかつたりするわけだが、「展開」では、単元テストを受けてみる

とできるはずができていなかったという生徒が非常に多かった。公式を利用した展開ができない生徒も多く、振り返りの評価が低くなったと思われる。しかし、「因数分解」では自己評価の高まりとともに、力を身につけている様子がうかがえる。

#### 英語科の取組み

英語科においては、週3時間の2時間（1時間・ALTとのTT授業）を習熟度別のクラスで行っている。

**基本コース**では、主に単語と文法の指導に力点を置いて指導を行っている。スキルアップの方法として、単語と文法については自作プリントやノートを使った学習を行い、チェックカードをもとに繰り返し定着するまで指導を行っている。また、基本文のなめらかな音読をめざし教科書の繰り返し音読を実施し、ペアでの習熟度チェックを行っている。さらには、個々の課題克服に向けて個別課題を家庭学習等で取り組ませ、放課後や早朝などにチェックを行っている。

**応用コース**では、単語と文法の学習後、文法事項の応用問題を解いたり自由英作文に取り組んだりしている。自由英作文については、生徒同士が読み合って相互評価を行っている。音読の面では、イントネーションやアクセントに気を付けながら暗記をめざした取組みを行っている。最終的には、教師と生徒による口頭での和文英訳を実施し習熟度のチェックを行っている。また、家庭学習では問題集を中心に個別目標を設定するなど、生徒の自主性を尊重しつつアドバイスを与えながら取り組んでいる。両コースとも、量的な学力から質的な学力の向上を図る取組みを行っている。習熟度別学習（英語科）の成果としては次の通りである。

- ・生徒自らこれまでの学習を振り返り、自分の意思によりクラスを決めることで学習意欲につながった。
- ・生徒一人一人に充分対応できる人数であり質問にその場で答えることができるので、生徒の疑問をその場で解決できている。
- ・基本クラスではそれまで全体の場に出しにくかった質問ができ、それをみんなで確認し、理解しながら進めてくることができた。そして応用クラスでは、自己表現を取り入れることで実践的英語を身につけより高い達成感を味わうことができた。
- ・一斉授業ではあまり積極的に発表できなかった生徒が何人かいたが習熟度別に分けたことで少しずつ自信が持て、みんなで学習していくという雰囲気の中で無理なく発表ができるようになった。
- ・多くの生徒が定期テストの得点を上げることができた。（得点推移参照）

3年生の「英語の授業がよく分ります。」と回答した生徒は、64.7%と昨年度比17.6%増加している。

（定期テストの得点推移）

	昨年度末	1学期中	1学期末	2学期中	2学期末
3年〔応用〕A男	77点	81点	89点	78点	84点
3年〔基礎〕B子	24点	40点	54点	51点	46点
2年〔応用〕C子	78点	87点	91点	81点	71点
2年〔基礎〕D子	39点	43点	56点	58点	47点

#### TTによる指導

必修教科におけるTT指導

必修教科（国語・社会・数学・理科・英語等）において、免許外教員を T2 として個別指導（ピンポイント指導）に携わることにより、個別指導や単元におけるポイント授業（社会科歴史の文化史を美術科の教員がポイント指導する等）、実験や実技の補助を行う等、学習効果が上がるよう工夫し取り組み、確実な基礎学力の定着を図っている。

#### 中学校選択教科における習熟度に応じた学習の指導

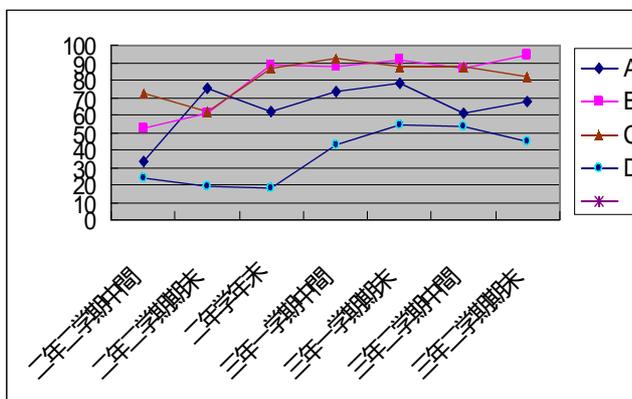
選択 A（英語・数学）と選択 C（国語・社会・理科）では補充学習を行っている。特に選択 A においては、免許外教員が T2 としてピンポイント指導に携わり、T1 との連携のもと一人ひとりの生徒の課題把握に努め、全教職員でかかわる態勢をとっている。生徒の習熟度に応じたプリントを作成することにより、生徒自身が学習のつまづきを早期に見つけ意欲的に解決するようになり、他教科への相乗効果を出しつつある。

#### 補充（チューター）指導（英語科）

英語を苦手とする生徒を対象に、分かる楽しさやできる楽しさを伝え学習意欲を持たせたり授業をきちんと理解させたりするために補充学習の場を設定し、生徒一人一人に応じた学習の支援を行っている。チューターは主に英語教員が行い、放課後等を使ってほぼ毎日実施している。

内容は、既習の単語と文法の復習を中心とし、文法については口頭試問形式での演習を行っている。また、定期テスト直前指導や校内英検合格のための支援も行っている。11月現在、この学習に参加する生徒は24名で、2グループに分けて指導を行っている。最近では、生徒の中からリーダーが生まれ、そのリーダーがチューターの補助をするなど主体的に取り組む姿勢も始まった。

成果としては、授業理解度が高まり、グラフのように全体的に定期テストの点数が平均して20点～30点の増加がみられた。また、校内英検に全員が積極的に挑戦し、6割以上の生徒が合格を果たしている。現在は、生徒の進度に合わせた学習プリントを用意し、自主的に学習を進めている。



#### フロンティア指導案による指導方法の改善

今年度は、フロンティア指導案を全教科（講師を除く）で作成して研究授業を行い、教科の教育技術の向上と指導方法の工夫改善を図った。

フロンティア指導案・・・生徒の反応を引き出す授業づくりに取り組むため、指導案の見直しを図った。特に、評価規準に基づいて判断基準を盛り込んだ指導案を作成することにより、指導と評価が一体化するようになり、また細案として、「発問と予想される生徒の反応」と「板書計画」と「学習支援方法」を作成・図示することにより、授業方法の改善が図られるようになっている。今年度は特に授業観察表を作成し、教員による相互評価を行うことにより、日頃から授業観察がしやすい環境を作り上げつつある。その結果、

「授業がよくわかる」と答えた生徒は、昨年度と比較して国語科 50 89.4 %，数学 82.4 84.2 %，英語 47.1 89.4 %と増加した。

〔別紙資料3 フロンティア指導案参照〕

「学習の手引き」活用による学び方の習得

「どのようにして勉強したらいいのかわからない。」との声が生徒や保護者からあがっていたので、家庭学習の定着を図るために、まず学び方の習得を視野に入れた「学習の手引き」を作成し、自学自習の習慣の定着を図った。学習上のポイントとして授業への臨み方、家庭学習の方法、試験勉強の方法の3点に絞り、計画的に課題を出しながら継続して学習指導を行った。

その結果、家庭学習時間1時間未満が63%から45%に減少し、「よく分るように勉強の仕方を工夫する」が26.5%から42.2%に増加していることから、学びの姿勢が定着しつつあることがうかがえる。

(4) 基礎的・基本的な内容がより確実に定着するための評価の在り方の研究

「振り返り表」の活用

昨年度の「基礎・基本定着状況調査」の生活と学習に関する意識・実態調査から、家庭学習時間が1時間未満の生徒が大半を占めている現状が明らかになった。

そこで、まず生徒の学習意欲を高めるために、また学び方を習得させるために、「振り返り表」を活用することにより既習事項の理解度を生徒自身にチェックさせ、何が理解できて何が理解できていないかを生徒自身に把握させた。さらに具体的な学習アドバイス（授業での補足や補充授業等）を加えることにより、学び方や学習意欲の喚起に役立てることにした。単元ごとや定期テスト前に振り返らせることにより、自己評価能力を高め、自学自習の習慣（学び方）を身につけさせることを目標に取り組んできた。振り返り表の活用に関する分析結果は次の表の通りである。（3年・上段1学期 下段2学期）

質問項目	国語	社会	数学	理科	英語
振り返り表はチェックがしやすいですか。	3.0 3.1	3.0 3.2	3.2 3.1	2.6 2.7	3.1 2.9
振り返り表は自分のつまづいているところがわかりますか。	3.2 2.8	3.2 3.1	3.2 3.3	2.7 2.9	3.2 3.1
振り返り表は家庭学習（試験勉強）に役立っていますか。	3.0 3.0	3.2 2.9	3.1 2.5	2.7 2.9	2.8 2.4
振り返り表は学習の要点（ポイント）がわかりますか。	3.0 2.4	3.0 3.0	3.2 2.8	2.7 2.7	3.6 2.8
振り返り表のチェックによりわからないことを解決する努力をしていますか。	2.8 2.8	2.7 2.7	2.9 2.6	2.7 2.8	2.6 2.4

2学期は1学期と比較してやや下降しているが、おおむね学習のつまづきを早期に見つけ、学習課題も明確にしている様子がうかがえる。しかし、課題解決へ向けての努力には力不足を感じるのが現状である。

「個人カルテ」の活用（英語科・数学科）

複数教員による協力的な指導を行う場合、児童・生徒の様子をお互いに把握し共通理解のもとで指導することが必要である。そこで、定期テストや単元テスト、振り返り表の結果等を含めた一人一人の個人カルテを作成し、一人一人の児童・生徒についてきめ細かな個に応じた学習支援ができるよう記

録していくことにした。具体的には、個人カルテを活用して個に応じた学習支援を行うため、英語と数学を中心に、ピンポイント指導や補充チューター指導、家庭連携による自学自習等との連動により、着実に基礎学力の定着を図ることにしている。

英語科の取組みは、個々の生徒について1年生からの学習内容において、どの単元でつまづいているのかを早期に把握することにより、個々の生徒の学習課題に応じた学習プランを構築することを目的としている。そのために1年生からの既習事項において、理解不足な点を補う単元別文法プリントを2、3年生全員に配布し、家庭学習として取り組ませ、(分からなかった問題は空欄、家族や友達に教えてもらった問題には印をつけて提出する)その結果を「個人カルテ」に棒グラフで記入するようにしている。その後、不合格生徒は放課後、個別指導を行い、学習方法や具体的な取り組み方について「アドバイスカード」(本人の良かった点、今後の課題と解決方法の記載)をもとに適切に助言している。その際、分からないことや、つまづきは、大小に関わらず質問するようにし、個別指導していく中で解決するようにしている。成果としては次の通りである。〔別紙資料4 英語科個人カルテ参照〕

- ・1年生からの総復習をする事ができ、つまづきに気づく事ができる。
- ・一人一人が自分のつまづきに気づき、それに対してどのように取り組めば良いかがわかる。
- ・個別指導の際、「みんなの前では質問できなかった事が分かって良かった。」という生徒からの意見があった。
- ・何から手をつければよいのか分からない生徒にとっては、勉強する手立てになった。
- ・今まではあやふやで何となく答えていた生徒にとって、確かな学力への第一歩となった。
- ・書くことが苦手で、英文法を理解できていないままの生徒が多いので、文のきまりを学習するよい機会となった。
- ・1年生からつまづいている生徒が多く、単元別のプリントを学習する事で、自分がどの単元でつまづいているのか、それに対してどうすればよいのかを各自知る事ができた。
- ・定期テストでのケアレスミスが少しだが減った。

数学科の個人カルテについては、1～2年生は学習アドバイスに活用し、3年生は習熟度別コースを適切に選択するための資料としても活用している。成果としては次の通りである。〔別紙資料5 数学科個人カルテ参照〕

- ・少人数であるため、生徒の誰がどのくらいの実力があるかというのは、教科担任としてほぼ記憶できている。しかし、個人のデータをこまめに記録することで正確に個人の状況を把握することができる。「振り返り表」で生徒の自己評価を知り、授業での気づきやテストでの実態などを記録することで、各生徒にきめ細かいアドバイスができる。
- ・クラス全体の傾向や、共通して良くできること、またはそうでないことがはっきりすることがある。例えば、1年生がテストを受けたとき、余った時間に見直しをする回数が少ない等。その時はクラス全体に指導していくことで、全体のテストに対する取組みの改善に繋がることになる。

(5) 小中連携による指導方法の工夫改善

小中連携授業（みのちレッスン）の取組み

小学校児童の学習指導面における中学校へのスムーズな移行と、中学校指導者の児童把握と小学校指導者の教科指導研修を目的に、小・中学校指導者によるチームティーチング指導を行う。具体的には、湯来西小学校へ音楽を週1時間、湯来東小学校へ算数、英語を週1時間ずつ行うものとする。なお、3校は、水内川の上中下流域に位置し、中流域に位置する湯来中学校が、上流域に位置する湯来西小学校と下流域に位置する湯来東小学校と連携することから、この授業を『みのちレッスン』と名付けた。

湯来西小学校（音楽）

音楽科の授業は教師の得意や不得意、資質や能力、趣味や好みが影響されやすい科目である。また教師自身の今までの音楽学習の仕方と、何に音楽的感動を受けてきたかという経験がその教師の土台となっており、他教科に比べて、又学校によって内容の差が大きい。

そこで小中連携の授業を行う中では、指導要領に沿って小学校の段階で学習しておくこと、また、中学校で発展していくものを確実に身に付けていく必要がある。そこで「音楽のすばらしさ」や「音楽とかかわり合うことへの喜び」を実感できるような場を設け、最終目標である「生活を明るく豊かなものにする」ことへ近づけていくことにした。

対象学年 湯来西小学校5年生（4名）6年生（4名）計8名

目的

音楽活動の基礎的な能力を、小学校から中学校まで一貫した指導のもとで育む。

具体的目標

音楽の諸要素の中での構成要素（リズム・旋律・和声・音色など）うち1学期はリズムに、2学期は旋律に、3学期は和声に重点を置いて行う。その際表現要素（速度・強弱）も取り入れながら行う。

方法（1学期）

- ・主にリズムカードを使って行う。（手拍子で打つ）
- ・基本的なリズムパターンやリズムの取り方を繰り返し行う。
- ・リズムの組み合わせを毎回自分たちで作り、声に出したり、手拍子や床、机などをたたいて表現する。
- ・教科書の歌など、歌唱する時にリズム打ちで確認する。
- ・ウクレレの学習時コードを練習する時などは、リズムパターンで練習する。

現状

- ・基本的な音符の長さを理解していない。（8人中6人）
- ・音符と休符の区別が曖昧である。
- ・流れを感じて打つことが難しい。

成果と課題

- ・リズムカードを繰り返し行うことで、音符の長さや、休符の感じ方など理解してきた。（8人中7人）
- ・2人で授業を進める中で、つまずいている児童や、困っている児童に

- すぐに対処でき支援することで理解が早まっているように思う。
- ・授業の中で T 1 , T 2 が入れ替わる場面が毎回あるので , 変化があり児童も集中して取り組んでいる。

#### 湯来東小学校 ( 英語 )

##### 目的

- ・英語に触れることが少ない小学生に , 英語を聞いたり話したりする機会をつくり , 英語に親しみ , 興味を持たせる。
- ・中学校に入る前に英語を学ぶことで , 中学での英語学習に取り組みやすくする。

##### 実施形態

- ・英語科教員 1 人と ALT 1 人が授業を行う。
- ・毎週水曜日の午後 , 5 校時に 3 . 4 年生を , 6 校時に 5 . 6 年生を教える。
- ・指導の流れを ALT がつくり , 事前に確認し , 英語科教員は英語ではわかりにくい指示の説明や , グループに分けての指導などの補助的な役割をする。
- ・体を動かしたり絵を使ったりするゲームや , 簡単な会話を中心とし , 児童の興味を引くものを行う。
- ・小学校の担任は児童への個人的な指示や指導を行う。

##### 成果

- ・児童は英語の活動に全精力をかたむけて取り組み , 週 1 度にもかわらぬ毎時間の内容をしっかり吸収し , 積み重ねていくことができた。
  - a 動物 , 食べ物 , 色 , 体の部分が英語で言える。
  - b 英語の指示がわかり動作をすることができる。
  - c アルファベットが読める。
  - d 英語で数字がわかり , 簡単な計算に英語で答えることができる。
  - e 英語で簡単な自己紹介ができる。
- ・英語に対する興味を持続させることができた。
- ・ALT のいろんなアイデアを盛り込み , 小学生に適した教材の開発ができた。

#### 湯来東小学校 ( 算数 )

##### 取組みについて

湯来東小学校 6 年生を習熟度別のクラス分けをして 1 学期に 9 時間実施した。

- ・がっちりコース ( 基礎 ) を , 東小の担任が担当。
- ・どんどんコース ( 応用 ) を , 湯来中の教師が担当。

##### 成果

- ・児童の学習にふれることで , 思考の成長がよくわかる。小学生はわからないことを素直にわからないと表現してくれるので , 理解できたかどうかを把握しやすい。中学生に対して授業するとき , 以前よりも注意深く言葉を選んだり , 優しい言葉に置き換えて説明したりするようになった。

- ・中学生が陥りやすい間違いを，直接小学校の先生へ伝えることができる。例えば「＝」を縦にそろえてかくなど。また，単位の換算なども苦手な中学生が多いので，小学校でも指導していただいている。
- ・文章題の解き方についての指導もしていただいている。求めることに波線を引く。線分図を利用して解く，など。

#### 「小中9ヶ年カリキュラム」の作成・活用

##### ねらい

- ・中学校への見通しを持って指導することができるようにする。
- ・児童・生徒の学習実態を考えて，学習指導に軽重を付けることができるようにする。

##### C R Tの結果から見える課題

- ・国語・・・言語事項
- ・算数・数学・・・数量関係（小学校では「量と測定」と「数量関係」）

課題となる領域，事項に重点をおいて，9ヶ年のカリキュラムを作成する。

##### カリキュラム作成上の留意点と手順

- ・組み込む学習とその意味や活用
- ・レディネスを高める学習・・・その単元にかかわる当該学年，前学年の学習内容についてのレディネスを把握するためのテストや復習
- ・つなぎの学習・・・継続的に復習し，定着を図るための学習
- ・習熟度別学習・・・補充的な学習または発展的な学習などができるようにするための時間

##### ・上記の時間数の生み出し方

ア 算数（小学校）について

イ 標準指導時間数 指導書時数の合計 = (A)

ウ 教科書特設学習 (B)

エ (A) + (B) = (C)

オ (C) のすべて，または，一部を上記の学習時間にあてる。

##### ・国語（小学校）について

指導書に示されている復習・予備の時間のすべて，または一部を上記の学習時間にあてる。

##### 国語（中学校）について

ア 年間指導計画通りに1学年は140時間，2，3学年は105時間を各単元に振り分けている。（実際はそれらを上回る時間数になる）

140時間 = 4時間 × 35週（うち書写は28時間）

105時間 = 3時間 × 35週（うち書写は10.5時間）

「習熟度別学習」の時間はこの中に含まれる。

イ 140時間（105時間）を上回った時間に「レディネスを高める学習」をあてている。

##### 数学（中学校）について

ア 年間指導計画通りに105時間を各単元に振り分けている。

105時間 = 3時間 × 35週 (実際は105時間を上回る時間数になる。「習熟度別学習」の時間はこの中に含まれる。)

イ 105時間を上回った時間に「レディネスを高める学習」をあてている。

ウ 「つなぎの学習」は湯来中学校の「選択A」の時間を活用している。  
 選択A・・・1, 2学年は年間35時間。3学年は年間70時間。補充的な学習の時間として、クラスの人数を半分にして、英語と数学の授業を実施している。25分でクラスを入れ替えている。

#### 表の見方

・記号について

レディネステストまたは復習 網掛けは課題となる領域, 事項

つなぎの学習

習熟度別学習などでの加配時間

#### 成果

- ・児童や生徒の実態や系統性を考えて, 学習指導に軽重をつけて指導ができるようになった。
- ・中学校へ見通しを持って指導することができるようになった。

(例) 国語科の見方

小学 4年 17	様子や気持ち が伝わる ように /(9)	漢字辞典の 使い方を 知ろう /(2) +	知らせたい あんなこと こんなこと (15)	主語と述語 の関係を とらえよう /(2)	だん落とだ ん落の 関係を 考えて (15)	漢字の読み 方に気を 付けよう /(2)
	国語辞典 の使い方	漢字の組 み立てと 意味		様子をくわ しく表そう	漢字辞典 の使い方	漢字もの 知りか るた

予備・復習の時間から  
プラスした指導時間数

言語事項に関する  
指導時間数

予備・復習の時間

左端の時間数  
の上段は  
枠内合計を示す  
下段は  
標準指導時間数  
を示す

## 2. 今後の課題

校内漢字検定と校内英語検定の実施により語彙力の獲得に対する意欲が高まっていることをふまえ, 来年度は校内数学検定や校内社会科検定を作成していく。学び方を習得させ, 学習意欲の喚起を図り, 自学自習の習慣を定着させるため

に「学習の手引」や「個人カルテ」を有効に活用し、継続して指導していく必要がある。

「振り返り表」を定期テストや単元テスト等の事前に行うことにより、学習課題を早期に明らかにし（授業後に振り返らせることも含めて行う）、教科担任による学習指導は当然として行い、さらに担任との連携による情報交換を行い、教育相談週間（定期テスト前2週間）において、生徒との面談を通し適切に学習指導を行っていく。

個人カルテの質的充実を図り、個々の学習プランにつながるものを作成していき、個人カルテを活用して、ピンポイント指導や課外チューター指導、家庭連携による自学自習等との連動により、着実に基礎学力の定着を図りたい。

「9ヶ年のカリキュラム」の活用による成果と課題を分析し、より良いものを作成していく。

「個人カルテ」については、小中連携して研修を重ね、小学校から中学校へのスムーズな移行を可能にするとともに、9ヶ年を見通した湯来の学習プランを実現させるものを作成していく。

「水内レッスン」は事前事後の打ち合わせ時間の確保や小中教員による指導方法の工夫改善を図る取組みを進めていく必要がある。

#### 学力把握のための学校としての取組み

全学年でCRTテストを4月に実施し、各評価項目における到達度を客観的に分析することにより、一人一人の生徒の学習課題を把握することとしている。6月に2年生を対象に基礎基本定着状況調査を実施し、昨年度との比較検証により、今後の取組みに活用する。

今後も定期的に単元テストや定期テストを実施し、取組みの成果と課題を明らかにしつつ、到達度目標を設定し、「湯来プラン」としての具体的な取組みの実施やまとめをしていくことにしている。

#### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

ホームページによる公開と普及

取組みの具体的事例とその成果等について紹介することで普及を図る。

研究会開催による公開と普及

平成15年10月3日（金）本校において研究会を開催することで成果等の普及を図った。

フロンティアティーチャーとして第1回呉賀茂北地区協議会において実践報告第3回広島地区協議会において実践発表を行い、普及に努めた。

来年度の研究会開催による公開と普及

平成16年10月8日（金）予定



次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下	4～6学級		
	7～9学級	10～12学級		
	13～15学級	16学級以上		
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	その他			
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	

## 校内漢字検定の実施について

ねらい

全学年を対象に、言語生活の基礎となる漢字力を主体的、継続的に学習し定着できるように級を設定し、漢字を習得させ語彙を増やす。

手順

## (ア) プリント(冊子)配布と内容

10級・・・小4年生

9級・・・小5年生

8級・・・小6年生

7級・・・中1年前半

6級・・・後半

5級・・・中2年前半

4級・・・後半

3級・・・中3年前半

2級・・・後半

準1級・・・類義語・対義語・同音(訓)異字

1級・・・四字熟語・故事成語

・小学校の範囲は『兵庫県山口小学校陰山学級実践プリント 徹底反復漢字プリント』(陰山英男著)から引用させていただいた。中学校の範囲は教科書の巻末ページを利用する。

・習った漢字が使えるように、また語彙が増えるように、1つの漢字について多くの熟語を並べたものにした。(一問一答ではない)

・30問出題。10問が読みを、20問が書く問題にし、25問以上で合格とした。

(英語科と共通)

## (イ) テスト当日まで各自で学習

・必修授業で実施する時間がなく、呼びかけだけで終わった。ただし選択授業(2年生19名中10名、3年生34名中29名選択)では1～2時間程度かけて学習した。

## (ウ) 実施

・終業式後、各教室で全員受検。1枚につき10分。ダブル・トリプル受検者は受検数に応じて時間をかける。結果状況は次の通りである。

結果 10級	1年生	8 / 21名	合格達成率 38%
	2年生	13 / 20名	合格達成率 65%
	3年生	20 / 34名	合格達成率 58%
9級	1年生	13 / 21名	合格達成率 65%
	2年生	11 / 20名	合格達成率 55%
	3年生	19 / 34名	合格達成率 55%
8級	1年生	8 / 21名	合格達成率 38%
	2年生	3 / 20名	合格達成率 15%
	3年生	13 / 34名	合格達成率 38%
7級	1年生	2 / 21名	合格達成率 9%
	2年生	5 / 20名	合格達成率 25%
	3年生	4 / 34名	合格達成率 11%

## 校内英語検定の実施について

## 実施の目的

- ・全学年を対象に校内で小刻みにテストすることにより，気軽に英語の力試しをし，自分のペースで挑戦させ，英語学習の意欲を高める。
- ・単語編と文法編に分け，両面からの復習をする。

## 取組み内容

## ・実施日

	単語編	文法編
第1回	3月17日	6月16日
第2回	5月12日	9月4日
第3回	7月18日	11月13日
第4回	10月16日	1月15日
第5回	12月15日	
第6回	2月16日	



- ・手順 (ア) 各級の試験範囲を配布する。  
 単語編... 1年生の教科書から習った順に約100ずつを範囲とする。  
 (10級~)  
 文法編...問題集の1年生の範囲から割り振る。(10級~)
- (イ) 希望する級を把握する。(ダブル受検が可能)
- (ロ) 家庭学習，選択授業，個別指導の中で取り組む。  
 選択授業では，英検1週間前には英検対策の内容をする。
- (ハ) 校内英語検定を実施する。(放課後，全員参加)  
 単語編は，各級30問を10分程度ずつ  
 文法編は，各級20分程度
- (ニ) 単語編は30問中25問以上を合格とし，文法編は85%以上を合格とし，採点する。
- (ホ) 合格者には学校朝会で合格証を渡し，表彰する

## 各級の範囲

## 《単語編》

- 10級... 1年生の教科書 p 10 ~ p 44 の必修単語
- 9級... 1年生の教科書 p 45 ~ p 99 の必修単語
- 8級... 2年生の教科書 p 2 ~ p 36 の必修単語
- 7級... 2年生の教科書 p 38 ~ p 87 の必修単語
- 6級... 3年生の教科書 p 2 ~ p 29 の必修単語
- 5級... 3年生の教科書 p 34 ~ p 57 の必修単語
- 4級... 3年生の教科書 p 60 ~ p 83 の必修単語
- 3級... 1年生の全ての必修単語
- 2級... 2年生の全ての必修単語
- 1級... 1 ~ 3年生の全ての必修単語

## 《文法編》

## 1年生の範囲

- 10級... [英語で挨拶・I am ~. / Are you ~?・This (that) is ~・Is this (that) ~?]

He is ~. / She is ~ ・いろいろな形容詞・What ,Who で始まる疑問文  
一般動詞の文(1) ・一般動詞の疑問文, 否定文・英語で紹介する]

9 級... [ What, Which で始まる疑問文・How many ~ ? / A or B ? ・命令文・be 動詞のまとめ・一般動詞の文(2) ・一般動詞の疑問文, 否定文・Where で始まる疑問文・What time で始まる疑問文・When で始まる疑問文]

8 級... [ Whose で始まる疑問文・代名詞のまとめ・How で始まる疑問文・can を用いた文・英語で電話する・進行形の文・進行形の疑問文, 否定文・過去形の文・過去形の疑問文, 否定文]

### 2 年生の範囲

7 級... [ 一般動詞の過去形(1) ・一般動詞の過去形(2)(3) be 動詞の過去形・過去進行形・未来の表現(1)(2) ・英語で「天気予報」・依頼や勧誘を表す表現・勧誘や許可などを表す表現]

6 級... [ 必要・義務などを表す表現・There is (are) ~ . の文・接続詞(1)(2) 不定詞(1)(2) ・動名詞・SVC ・SVOC の文・SVOO の文]

5 級... [ 英語で「道案内」・比較(1)(2)(3) ・英語で「買い物」・現在完了形(1)(2) ・受身形(1)(2)]

### 3 年生の範囲

4 級... [ be 動詞のまとめ・一般動詞のまとめ・未来表現などのまとめ・助動詞などのまとめ・受身形(1)(2) ・現在完了形(1)(2)(3)]

3 級... [ 英語で「道案内」・不定詞の基本3用法・動名詞・疑問詞 to ~ / too ~ to ... tell など ~ to ... / It ~ to ... ・英語で「電話」・接続詞(1)(2) ・英語の文型(1)(2)]

2 級... [ 間接疑問文・英語で「買い物」・付加疑問文・名詞を修飾する語句・名詞を修飾する節(1)(2)(3) ・食卓で・総合テスト]

1 級... 1 年生 ~ 3 年生の全範囲から

現在の合格者数(累計)

(校内英語検定合格率状況)

単語編		文法編	
10 級(中1レベル)	94%	10 級(中1レベル)	92%
9 級(中1レベル)	61%	9 級(中1レベル)	57%
8 級(中2レベル)	57%	8 級(中1レベル)	35%
7 級(中2レベル)	29%	7 級(中2レベル)	29%
6 級(中3レベル)	22%	6 級(中2レベル)	5%
5 級(中3レベル)	12%	5 級(中2レベル)	3%
4 級(中3レベル)	11%	4 級(中3レベル)	1%
3 級(全中1レベル)	3%		

## フロンティア指導案

フロンティアの研究の視点として、指導方法の工夫改善があげられている。本校としては、岐阜聖徳学園大学教授大橋忠正先生にご指導をいただき、平成14年度より授業改善に努めている。

その骨格となる考え方は次の通りである。

教師の主要な資質、能力とは、教育課程の指導力であり、授業設計力である。故にその資質、能力の向上の目安となるものは、授業計画書作成力である。

授業は科学であり、授業者の人格、性格、経験などの属性によらないで客観的に成立する一面がある。特定個人の技に頼る名人芸でもなく授業者の主観的能力に委ねられるべきものでない。

授業研究の最大の問題点とは、研究授業実施前の指導案検討の不十分さにある。授業計画書の整備とは、それが他者の批判、吟味、修正が可能な形で仕上げられることをいう。

以上の3点をふまえて、「授業構成の重点は教材と生徒の反応である」という視点に立脚し、生徒の反応を引き出す授業づくりに取り組むため、指導案の見直しを図った。

特に、評価規準に基づいて判断基準を盛り込んだ指導案を作成することにより、毎時間の学習課題（学習のめあて）が明らかになり、指導と評価が一体化するようになり、また細案として、「発問と予想される生徒の反応」と「板書計画」と「学習支援方法」を作成・図示することにより、授業方法の改善が図られるようにした。

次は、指導案の書式例である。

-----

**第 学 年 科 学 習 指 導 案**

指導者

- 1 日 時 平成15年 月 日( )第 校時
- 2 学 年 第 学年 名(男子 名,女子 名)
- 3 単元名
- 4 単元設定の理由  
 本単元は(単元観を記載する)  
 本学級の生徒は(生徒観を記載する)  
 指導にあたっては(指導観を記載する)
- 5 単元の目標

観 点	目 標
関心・意欲・態度	
思考・判断	
技能・表現	
知識・理解	

- 6 指導計画(全 時間)本時... 次第 時

次	時	学習目標	評価規準	評価方法
				生徒観察

			発表分析
		生徒に指導計画を事前に示しておく と、自ら、学習の見通し、学習の進捗状況 学習の達成状況をとらえる一助となる。  教師、生徒相互の授業姿勢、学習態 度に緊張感が生まれる。	発表分析 ノート分析 生徒観察
			発表分析 生徒観察 ノート分析
			生徒観察 発表分析

7 本時の目標

本時における基礎・基本を一文でまとめる。

8 本時の評価規準と評価方法

観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
関心・意欲・態度		評価方法を具体的に明 示する。
思考・判断		
技能・表現		
知識・理解		

9 本時の判断基準

観 点	判 断 基 準	
	A	B
関心・意欲・態度		
思考・判断	学力の保障は、目標と評価の明確化にある。 観点別目標は各教科の学力の総和である。	
技能・表現		
知識・理解		

10 本時における基礎・基本定着の視点

フロンティアの取組みの視点としての次の3点、

基礎的・基本的な内容がより確実に定着するためのカリキュラムと教材の開発を行う。

基礎的・基本的な内容がより確実に定着するための指導方法・指導体制の研究を行う。

基礎的・基本的な内容がより確実に定着するための評価の在り方の研究をふまえて、本時の基礎基本は何かを明記する。

11 展 開

学 習 活 動	指 導 ・ 支 援	評 価	準 備 物 等
1		( 関 )	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;">                     ( 生徒の学習目標・学習のめあて )                      本時における学習課題を明確化する。                 </div>			
2		( 技 )	
3		( 思 )	
4		( 知 )	

12 座席 ( 指導・支援 ) 表

黒 板

生徒名前			
これまでの学習 での様子(実態)			
本時におけるか かわり方(指導・ 支援)を明示す る。			

指導細案

[ 板書計画 ]

資料 1	資料 2	中心課題に対する生徒の反応等 { ・ ・ ・ }
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px auto; width: 80%;">                         本時のめあて                     </div>		<div style="border: 1px dashed black; width: 80%; margin: 10px auto; height: 20px;"></div>
学習内容 1 {	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 60%;">資料 3</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 60%;">資料 4</div>	まとめ !!

## 2 発問と予想される反応

発 問	予想される生徒の反応
<p>導入</p> <p>明確な発問，わかりやすい説明言語，子どもの主体的な思考を促す発言の取り扱いの細案の修正が子どもの思考活動を促進させる。</p>	<p>予想される生徒の反応と共に，期待される反応も記録しておく。</p>
<p>展開</p>	

## 3 資料および学習プリント等

授業で教師と生徒を結ぶ物が教材である。したがって教師が提示する教材・資料が授業内容の質を規定する。

資料 4

### 英語科個人カルテ

個人カルテ表

名前 A

項目	到達度
アルファベット	50
This is ~.	46
Is this ~.	48
He is ~.	48
一般動詞 (1)	48
I am ~.	48
複数の文	48
形容詞・副詞	42
命令文	40
canの文	40
一般動詞 (2)	42
目的格	38
Whose ~ ?	36
How ~ ?	44
時刻の文	30
現在進行形	50
過去の文 (1)	48
過去の文 (2)	48
接続詞	40
前置詞	40
単語 (1)	44
単語 (2)	44
発音	32
There is ~.	42

個人カルテ表

名前 B

項目	到達度
アルファベット	50
This is ~.	48
Is this ~.	38
He is ~.	38
一般動詞 (1)	48
I am ~.	48
複数の文	44
形容詞・副詞	38
命令文	36
canの文	48
一般動詞 (2)	38
目的格	30
Whose ~ ?	36
How ~ ?	36
時刻の文	32
現在進行形	48
過去の文 (1)	44
過去の文 (2)	40
接続詞	30
前置詞	30
単語 (1)	40
単語 (2)	45
発音	24
There is ~.	42

## 数学科個人カルテ

平成15年度 個人カルテ 1年生 ( )番 名前( Iくん )

単元名	テスト結果	振り返り平均ポイント		指導・助言
		テスト前	テスト後	
1 正負の数 (加減)	45	2.5	2.4	途中の式を丁寧に書く 間違えたらやり直す
中間テスト	50			
2 正負の数 (乗除)	76	2.8	2.9	作問A・D 関C
期末テスト	35			
夏休み明けテスト				
期末テスト				
6 平面図形				
冬休み明けテスト				
学年末テスト				
7 空間図形				

1年生の時は、定期テスト50前後。冬休みに1次方程式の課題プリントを徹底し、休み明けで96点。が、学年末38点。

{ 中 末 中 末 末 } 普段からていねいに計算する  
56 39 46 46 38 指導と、ミスしたとき再度

計算し直すことが必要！！